

愛知スキー協通信

No.257

発行：新日本スポーツ連盟 愛知スキー協会

2016年 7月 1日

〒460-0011 名古屋市中区大須 1-23-13 TEL052-201-4801 (Fax 共)

e-mail: aichiskikyokai@yahoo.co.jp (月1回発行)



<http://aichiskykyou.yukigesho.com/>

編集クラブ：イエティ

第45期 愛知スキー協会2016年7月3日

定期総会第45期 愛知スキー協会 定期総会を7月3日(日)労働会館にて13時～17時に行います。懇親会も同会場にて17時30分～19時30分で行います。

44期を振り返り、今期のスタート台に立つものです。今期の活動の方向性を話し合い、行事、日程、役割分担を決めます。各クラブ代議員が必要です。ぜひ定員通りの出席をお願いします。また、スキー協会員ならだれでも参加できます。多くの出席で実りのある楽しい総会にしたいと思います。主な議案を次ページから載せます、ご一読して参加ください。

深雪総会が行われました。

6月19日知多市勤労文化会館にて総会が15名の参加で開かれました。10時から知多市歴史民俗博物館見学11時より会館に移動し山筋ゴーゴー体操を行いました。昼食を取った後総会を開きました。活動・会計報告の後今期の方針・計画を話し合い決議しました。7月19日(月・祝日)葦毛湿原、8月25日(木)ビアパーティーと月例行事も決まりました。不在だった会長は、今期は児玉恒治さんが了承してくれ、副会長に東雅・安藤・岩井さんに決定しました。



直滑降総会

緑生涯学習センター7月9日(土)1時開始 総会終了後引き続き隣にある米常(5時～)で懇親会を予定しています。各クラブ総会およびそれに代わるものをしよう。



「サマーセミナー」8月27日28日

全国スキー協「サマーセミナー」は、東海ブロック交流学習会を兼ねて東海ブロックで開催します。

東海ブロックでたくさん参加できるようにご予約をお願いします。2016年8月27日28日・長良川スポーツプラザで行います。先月号の内容でほぼ決定していますが、最終的なチラシ(詳しい日程、内容等)は、後日連絡します

愛知スキー協会 第44期活動のまとめ

スキーの楽しさすばらしさを広げる活動

1 組織の活性化

- (1) それぞれのクラブがそれぞれにあった「クラブ力」を継続させている。機関紙の発行・例会や役員会の定期的な開催、楽しいオフ行事の実施など今まで培ってきた、良いものをよりよく発展させている。しかし、クラブ相互の協力と援助のためのクラブ懇談会、クラブ間交流行事や世代交代の実現、高齢化にふさわしい企画や制度を実現について議論できませんでした。
- (2) 安全なスキーのためにヘルメットやプロテクターの普及、オピニオン講習会への参加など実施しました。事故を理事会に報告しましたが、担当部署と担当者を決めなかったため、記録として残せませんでした。またスキー場の安全提言と山スキーの安全提言については議論できませんでした。
- (3) クラブとクラブ員の拡大
年代別の新しいクラブ作り、30人以上のクラブ作りについて議論できませんでした。スキーメイトは理事会として担当者を決めることができませんでした。メイトにクラブの行事の記事を送り、各クラブで担当者を決め配布・集金ができました。

2 東海ブロックの一員として、スキーの楽しさすばらしさを広げる活動(東海ブロック行事表参照)

行事はそれぞれ工夫を凝らして楽しい取り組みとして実施しましたが参加者数は目標に達しませんでした。また組織の拡大につながることができませんでした。

交流学習会は80名の目標でしたが東海ブロックスキー協で28名、愛知は13名の参加でした。12月の初滑り&指導員要請・研修会は100名の目標で東海ブロックは52名、愛知は31名の参加でした。1月30日～31日の平湯・スノーフェスティバルは200名目標(愛知目標150)で、東海ブロックは150名、愛知は113名の参加でした。第2戦競技会は70名目標でしたが雪なく中止し、練習会を実施しました。

3 スキー協らしい専門性の追求とスキー協の特色づくりの活動

ネイチャースキー(自然と深くかかわる新しい分野)をフェスタで実施したがまだ組織化には至っていません。

テレマークスキーは経塚さんが東海ブロックの責任者になり行事を3回実施し、新しい分野の組織化をめざしています。

こどもスキー、日帰りスキーは議論できず実施できませんでした。スノーボードは担当が一人で理事会でも相談できませんでした。

4 教程の普及とスキー技術の研究と実践の活動

初級指導員は1名誕生し、レポート提出3名でした。

愛知スキー協指導員登録数	28人
指導員理論研修出席者	14人(受講率 50%)
指導員実技研修出席者	17人(受講率 60.7%)
指導員応用研修出席者	17人(受講率 60.7%)
指導員研修三科目出席者	9人(受講率 32.1%)

5 スキー協を外部に広げる活動

- (1) 平和への取り組み 総会で戦争法廃止のアピール文採択。愛知スキー連盟加盟の102クラブに署名郵送
- (2) フェイスブックに愛知スキー協のページを作りました。また、ホームページもアップしています。

愛知スキー協会 第45回定期総会 決議 (案)

2016年7月3日

同じことをつづけるために、新しい人間関係と新しい視点で！

日本は今、戦後70年を超えて、政治に対する関わりが大きく変わろうとしています。選挙権が18歳で与えられての初めての国政選挙です。

侵略戦争を美化し、日本を「戦争をしない国から」「戦争をする国」へ作り変えようとする方向と、基地のない平和な沖縄と日本を目指して進む方向との国民的なたたかいが広がっています。

「スポーツは平和とともに」をスローガンに掲げる私たちは、平和のための活動にも大いに取り組みましょう。

全国スキー協が5年間つづけた、岩手と宮城における震災復興春休み子どもスキーは、無事終了することができました。この間、ボランティアに参加された皆さん、一生懸命募金を集めていただいた皆さんに心から感謝いたします。

熊本では大きな地震が立て続けに襲い、そのあとも何度も、何度も大きく揺れる。今まで見た事もない震災になりました。

昨シーズンは、例年にない少雪で様々な行事に支障が出ました。その中でも皆さんの努力と奮闘により成果を上げたシーズンになりました。

愛知スキー協のここ数年目指してきた方向性の一つが専門性の追求です。そして、スキー協らしい楽しさおもしろさを追求して、特化しようということです。行事ごとに技術の向上のためには、組織としてどうとらえるか、技術論と組織論を常に平行して捉えるように働きかけてきました。「スキー協は、スキー協らしい人間関係にある」と思います。それが、楽しさおもしろさの原点です。それをさらに発展させたいと思います。

スキー協はクラブが基本です。会員が主人公であり、会員個々の要求に基づいて計画を立て、実践していきます。常に同じ事に満足せずさらにその先に行く食欲と追求心を持ちましょう。10年後あなたは、クラブにいますか？あなたは、クラブやスキー協は、どんな形で存在していると思いますか？今とは違っているはずですよ。

私たちが自ら生きいきしている環境を作って行きましょう。

その為に、出来ない事、ないものを目標に据える事はやめましょう。新しい事に挑戦しないということではありません。今まで築いてきた人間関係を崩さずに、あらたな関わり方をそれぞれができないでしょうか？

同じ人が、同じ担当をやり続けるのではなく、交替しつつ助言やフォローをしながら関わりを持ち続けられないでしょうか？今まで担当が変わればその人に任せきるかたちが、一般的なやり方のように思われます。それを変えてみませんか？

研修会や技術委員会で指導員を複数にして、伝えたい物をきちっと明確にする実践が評価されたように思われます。それをクラブ運営で実践します。

特に、若い世代をいかに取り込み、そして比率を増して行くことは絶対に必要なことです。しかし現実のなかで、多く居る経験豊かな世代が先頭に立って、さらにおもしろさを広げている背中を見せつける事が今こそ大事なことです。

そして、今だからこそ、出来ること(アウトドアスポーツの発展・スポーツ権の拡充等)、感じることを、大切にしたいと思います。課題は、これからも多く出てくると思いますが、共通の課題の突破口をみんなで見つけ出したいと思います。

スキーマの楽しさすばらしさを広げる活動の展開

1 組織の活性化のために（今まで培ってきた、良いものを、視点を変えてよりよく発展させます）

(1) それぞれのクラブがそれぞれにあった「クラブ力」をアップしていきます

- ・10年後も存在するクラブにしよう
- ・今ある、楽しさが今後も引き継がれるために役割や担当を交代しよう
- ・高齢化にふさわしい企画や制度を実現しよう
 - ・担当者に任せきりにしない、民主的な運営をこころがけよう
 - ・同じ企画でも視点が変われば、新しい企画になるはずです。

① それぞれの例会を定期に開催しよう

① 機関紙をみんなでつくろう

② オフトレをしよう

③ 各行事のどこが自分にとって、魅力があるのかはっきりさせ、人を誘おう

④ みんなで学習・研究をしよう

- ・どうしたら、安全が得られるのか『オピニオン講習会の参加』
- ・どうしたらスキーが上手くなるのか
- ・どうしたら、スキーを長く続けられるのか

⑤ いっしょにやっ、意味のあること一緒にやる相手を見つけよう

- ・家庭や親族で
- ・職場で
- ・地域で
- ・いろいろな種目に挑戦し、その仲間と
- ・新クラブ員の拡大をして、その友達も誘って
- ・クラブ間交流行事をして
- ・他県との協同行事をして
- ・全国スキー協の企画に参加して
- ・スポーツ連盟行事に参加して
- ・他団体行事、企画に参加して

(2) 安全なスキーのために

- ① ゲレンデの飲酒は、やめよう。遅くまでの深酒も慎もう
- ② 全ての事故を理事会に報告し易い簡単な、書式の報告書をつくり、担当を決めます
- ③ 前年の事故事例で学習し、みんなの命はみんなでまもります
- ④ ヘルメットやプロテクターを着けて、自分の身は自分で守ります
- ⑤ ヘルメットやプロテクターを着けて、更にみんなにも勧めよう
- ⑥ 滑る前の安全確認をし、危険な場合は滑らない決断をしよう
- ⑦ スキー場の安全提言をしよう
- ⑧ スキーの安全提言をしよう
- ⑨ 行動前には、ストレッチ等の準備運動を習慣づけよう

(3) クラブが基本です

クラブの動き、現状を具体的につかみ合い、状況の解る論議をしよう

(ア) それぞれの、クラブにあった「クラブ力」を追求してください

(イ) 新し会員が新しい人を連れてきます。クラブを活性化するためには、クラブ全体がそのことを認識して、定着する為の行動と対策を執らなければクラブは日常的な再生力をなくします

(ウ) 各クラブの特色を創り、培われたスキーの楽しみ方および、得意な技術の継続と発展をしよう

(エ) クラブの構成実態(スキーヤーとボーダーの人数把握、大人と子ども人数の把握、メイト普及と活

用状況、クラブ名簿の整理等)を把握する

(オ) クラブ相互の協力と援助が大切です。クラブ懇談会を随時行います

(3) そのための具体案です

(ア) 新しいクラブを創ります。年代別のクラブの芽を立ち上げます(8→10クラブ)

(イ) 役員会は、理事長、副理事長、専門部長、事務局長、事務局次長、会計で構成します

(ウ) 理事会に、組織担当者・安全担当者をおきます。

(エ) クラブは30人以上にしましょう

(オ) スキーメイトを活用しての購読者を10%増やしましょう。メイトにクラブの行事の記事を送りましょう。各クラブで担当者を決め配布・集金をしましょう

(カ) 交流学習会を80名。12月の初すべり&指導員要請・研修会を100名で行います。1月28日から29日の平湯・スノーフェスティバルを全国の協賛をえて200名(愛知参加者だけで150名を目標)で成功させます。第2戦競技会を70名で行います

(キ) 愛知スキー協の会員を300名にしよう

2 東海ブロックの一員として、スキーの楽しさすばらしさを広げよう(東海ブロック行事表参照)

(1) ブロックの連絡を取り合い、それぞれの現状を確認しあいながら、さらに連帯を強めよう

(役員合宿を技術委員会とし拡大して8月に行います)

(2) 9月に技術講座合宿を行います(競技部ワークショップと協同)

(3) スキーシーズンを楽しく迎える為に、8月に交流学習会を全国セミナーとして成功させよう

(組織論を考える機会にし、クラブや専門部の核づくりの場とする)

(4) 技術委員会のレベルアップと体制強化を図り、東海ブロック全体が楽しく上手くなるようにしよう

(1月レベルアップ研修)

(5) 安く参加できる目玉行事として、若者に呼びかけをして、12月の初すべり&指導員養成・研修会を提案し

ます。

(6) 楽しさと、ここでしか味わえない付加価値を更に積み重ね、増幅させて、平湯スノーフェスティバルを提案します

(7) 初心者から上級者まで楽しめる、2回の競技大会の成功を目指します。

(8) 以上の企画を各県の特色を出しながら系統的に繋がりを持たせて、組織の拡大を目指します

3 スキー協らしい専門性の追求とスキー協の特色づくりをしよう

(1) スキー協としての各種専門分野と担当部及び責任者ならびに目指す方向性

① 競技	競技部	初心者から上級者まで全員参加してつくる競技大会
② 山スキー	山スキー部	深雪を楽しく、安全に
③ 指導員技術	技術部	技術向上と組織強化
④ スノーハイキング	フェスティバル実行委員会	新たなスノースポーツ開発とスキー協らしさ作り
⑤ ネイチャースキー	理事会	自然と深くかかわる新しい分野の組織化
⑥ テレマークスキー	山スキー部	新しい分野の組織化
⑦ こどもスキー	理事会	次世代スキーヤーの養成
⑧ 日帰りスキー	理事会	安く参加できる行事と組織作り
⑨ スノーボード	理事会	ボーダーの組織化
⑩ おもしろ競技	フェスティバル実行委員会	新たなスノースポーツ開発とスキー協らしさ作り
⑪ 雪遊び 雪合戦	フェスティバル実行委員会	新たなスノースポーツ開発とスキー協らしさ作り
⑫ スキーメイト普及	理事会	技術向上と組織強化
⑬ 基礎的なスキー技術	各クラブの技術部	技術向上と組織強化
⑭ 安全対策	理事会	<u>人の命を守る</u>

- (2) クラブの特色ごとに専門性をさらに発展させよう
- ① それぞれのクラブに、あったスキーの楽しみ方および、得意な技術の継続と発展をはかろう
 - ② それぞれのクラブに培われたオフトレ方法および、得意なスポーツの継続と発展をはかり、クラブの専門性を打ち出そう

4 教程の普及とスキー技術の研究と実践をしよう

- (1) 指導員は、研修に参加し指導法を研究しよう
(養成講座×6回、研修講座×16回、検定回×3回、STT×6回を全国へ申請します)
- (2) 指導員の役割と必要性をはっきりさせよう(研修会の強化・研究レポートの提出)
- (3) 初級指導員を 3名、中級指導員を2名、上級指導員を1名養成しよう
- (4) 技術委員会のメンバーは、本来の機能を発揮し、スキー技術をきちんと伝えよう
- (5) 山スキー入門コースを複数行い、山スキー人口のすそ野を広げます
- (6) 山スキーリーダーを3名に増やします
- (7) 山スキー部は、ゲレンデ外を安全に滑る技術を実践し、技術向上を図り、広めます
- (8) 競技部は、ポール練習会を3回開き、技術向上をはかろう
- (9) ボード部で指導員の養成と教程書の普及を三重、静岡、全国ボード部との連携をとって行う

5 スキー協を外部に広げる活動をしよう

- (1) 各クラブのメイン宿舎にメイトと新教程書とクラブの機関紙(ニュース)を置こう
- (2) スキーの行事に誘うことが一番手っ取り早く効率的です
(初すべり・子どもスキー・スノーフェスティバル・競技会・専門部行事・クラブ行事)
- (3) フェイスブック・ホームページの更新をみんなで支えよう
- (4) 他団体との協力共同の取り組みを創りましょう

各クラブ。専門部の活動のまとめは、紙及び口頭で報告してください。

総会の目的・目標

- 1、参加者、クラブにとって「やくにたつ」総会でありたい。
- 2、シーズンの初めのスタート台にたつ場であること。
- 3、仲間と、この先1年の活動の方向性を論議し、45期のスキー協を自分のものとすること。
- 4、行事、日程、役割分担を決めること。

第45期のあり方

総会、技術委員会、交流学习会、研修会、養成講座、初すべり、フェスティバル、クラブ行事、クラブ運営、専門部活動、指導員活動、スキー教室に限らず、日常的な練習やクラブ運営で実践する指針であること。さらに、自らのスキー生活、スキー術の向上・研究など全ての事柄で「組織的に、技術的に、運動的に向上しているか」を追求していきます。そして、つぎの総会にも参加したくなる内容であること。